

まちかど

●荏原第一地域新聞●

花めぐり

コウバイ (紅梅)

私の世代では「コウバイ」と聞くと、頭にピンとくるのはA級の「森永ミルクキャラメル」、そしてB級の赤い箱「紅梅キャラメル」です。昭和25年から32年頃にワンパクだったご同輩ならば思い出すでしょう。

コウバイの花言葉は「優美な人」だそうです。淡紅色の花の控えめ、かつ凛とした容姿が、その言葉を与えられたのでしょうか。

このあたりでは、通称「安西通り」に面した東部町会の中にある「あさひ公園」で見ることができます。公園の休憩所の近くに木肌が老木風の少し大きめの木が目にとまります。

今年は暖冬の予想です。このコウバイの木はすっかりその気になって、もうすぐ満開になる気です。まちなみで発行時は薄紅色の花でいっぱいでしょう。



ちなみにコウバイは食用には向きません。実が小さく酸味と苦味が強いです。高級で著名な「南紅梅」は白梅だそうです。
(小山二丁目西部町会 高橋 元嘉)



島村篤子代表取締役社長(左)と河邊克巳代表取締役社長

河邊社長は、「今は、昆布そのものだけでは売れない。時代に合わせて進化させていくことも大切」とおっしゃっていました。また、河邊社長は、今回の表彰を受けて「1年でも長く企業を継続すること。それが地域貢献や活性化につながると思う」と語っていました。

100年以上にわたり事業を継続している事業所に贈られる「永年継続事業所表彰」が、12月2日(金)に中小企業センターで行われました。荏原第一管内からは、創業152年の「有限会社河邊商店」と、創業110年の「株式会社東京堂」が表彰されました。

表彰式には、河邊克巳代表取締役社長と島村篤子代表取締役社長が出席され、濱野区長より表彰状が授与されました。河邊社長は、「長い歴史の重みより、温故知新の精神をもって、常に前へ前へと進むことだけを考えている」と言います。戦後、品川区には昆布などの海藻類を販売する小売店が多数ありましたが、昭和40年頃よりスーパーマーケットが台頭し始めて、地域の店は減少。そこで河邊社長は、物流の進歩に目をつけ、地方への販路拡大へと力を入れます。全国各地へと足を運び、様々な食品会社やメーカーの規格に合わせることで、今では200種類以上の海産物製品を作るまでに成長しました。一方、海外の和食ブームに向けて、著名なホテルの総料理長らと昆布の調理法を企画・提案し、新しい食べ方も研究しています。

永年継続事業所二社を表彰し長年の功績をたたえて

●有限会社河邊商店

昆布やわかめなど、主に海藻類の製造・加工。御まで一貫して行う河邊商店。その歴史は、慶応元年までさかのぼります。創業は、江東区古石場できざみ昆布の製造から始まりました。しかし、明治時代の大水害により製造工場を失い、関東大震災で被災。現在は工場を群馬県に新設し、事務所と店舗は小山三丁目構えて今年で94年が経ちました。

わが家のペット

～モルモットのモコちゃん～

モコちゃんは生後4か月のかわいい女の子です。ママのお友達が私の誕生日祝いにと、モルモットのモコちゃんをプレゼントしてくれたのですが、犬は散歩をしないといけないからダメと言われ、それでモコちゃんになりました。



私が学校に行ってる時はリビングのケージに入って眠っています。学校から帰ってきたら、ケージから出して抱っこしたり、いっぱい遊んであげたり、私がおトイレも取りかえてきれいにしています。とってもかわいい声でクウクウと鳴きます。本当にかわいいです。えさはペレットで、野菜やリンゴも大好きです。冷蔵庫が開くと、えさをくれると思って走ってきます。私のために飼ったのに、今では家中がモコちゃんのとりになっています。毎日モコちゃんの話で会話ははずみ、動物がいる生活が楽しいです。
(小学2年 風間美音・小山2丁目東部 山内静子)

●株式会社東京堂

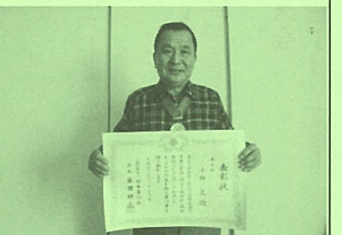
武蔵小山商店街パルムに店を構える東京堂は、メガネ・時計・ジュエリー製品などを扱う創業110年の老舗です。その歴史は、時計職人だった創業者・細谷省三氏が、現在の大井三丁目にあった伊藤博文別邸の隣で、伊藤家のホールクロックの修理を任されたことから始まりました。

3代目・島村篤子社長は、祖父と父の代から大切にしてきたものは「人」だと言います。昭和30年代、飛ぶように腕時計が売れた時代。東京堂では、住み込みの時計修理職人が3人と、店員が30人近くいました。店は休みもない日々でしたが、皆、寝食を共にし、言わば家族のような存在でした。幼い頃から大勢の人たちと関わってきたことが、自然とお客様や地域の方たちへの感謝に繋がっています。

今、店の主力はメガネと補聴器です。「東京堂は、高齢化の視力と聴力を支えます」とおっしゃる島村社長は、検眼にも1時間以上かける丁寧さ。お客様の顔に合ったフレーム、そして、快適に見えるメガネ作りを心掛けています。今回の表彰を受けて、「今年が創業110年の節目の年です。長年店を支えてくれている従業員たちと、地域の皆様には感謝の気持ちでいっぱいです」とおっしゃっていました。

小西久さん、見守り運動で表彰

明るく住みやすい社会づくりに努め、国の発展に寄与した方に表彰される一般社団法人日本善行会の「秋季善行表彰」が、11月26日(土)に明治神宮参集殿で行われました。



小西 久さん

品川区からは2名が受賞。この内、荏原第一管内からは、荏原3丁目の小西久さんが表彰されました。小西さんは、10年前から毎朝、荏原平塚学園の通学路に立ち、挨拶の声をかけながら子どもたちの見守り運動に努めています。きっかけは、平成18年に地域住民と共に関心を持って、平成18年に地域住民と共同で学校運営の改善に取り組む「校区外部評価委員会」に委嘱されたことでした。小西さんは、学校教育に関わる上では、子どもたちとコミュニケーションを取ることに何よりも大切だと考え、毎朝通学路に立ち運動を始めました。雨の日も雪の日も、毎朝立ち続けている小西さん。「もう習慣ですね」と照れ笑いしながら、「体が動くまで続けます」とおっしゃっていました。◎受賞された皆様、おめでとうございました。記事は品川区・荏原第一のホームページにも掲載されています。(事務局)

◎各ご家庭に配布しております。一部ずつお取り下さい。次号『まちかど』は、2月20日(月)発行の予定です。

「まちかど」は、品川区役所ホームページからもご覧いただけます。 <http://www.city.shinagawa/tokyo.jp/> 古紙を配合した紙を利用しています。